

# 総務文教常任委員会記録②

令和4年5月12日

【開催日】 令和4年5月12日（木）

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時57分

【出席委員】

委員長	長谷川 知 司	副委員長	宮 本 政 志
委員	伊 場 勇	委員	岡 山 明
委員	笹 木 慶 之	委員	古 豊 和 恵
委員	前 田 浩 司		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	高 松 秀 樹	副議長	中 村 博 行
----	---------	-----	---------

【参考人】

参考人出席者	中 村 眞 也		
--------	---------	--	--

【事務局出席者】

事務局長	河 口 修 司	庶務調査係長	田 中 洋 子
------	---------	--------	---------

【審査内容】

- 1 陳情書（教育委員中村眞也氏の中立性を欠く言動についての調査及び対応について）

---

午前10時 開会

---

長谷川知司委員長 おはようございます。ただいまから総務文教常任委員会を開催いたします。では、陳情書「教育委員中村眞也氏の中立性を欠く言動についての調査及び対応について」を議題として審査を行います。本日は参考人として、中村眞也さんの出席を得ております。それでは、委員会を代表して参考人に一言、御挨拶を申し上げます。座ったままで失礼します。本日はお忙しい中にもかかわらず、本委員会に出席していただきました。委員会を代表して、本日は、率直な御意見をお述べくださ

るようお願いいたします。本日の議事について申し上げます。本陳情書について参考人の方へ質疑を行わせていただきます。参考人におかれましては、委員長の許可を得てから発言くださるようお願いいたします。発言の内容は問題の範囲を超えないようお願いいたします。なお、参考人は、委員に対して質疑をすることができないことになっておりますので、あわせて御了承願います。また委員会の内容は、インターネットで放送されておりますので、個人情報については、発言を控えていただくようお願いいたします。それでは、これから質疑に入りますが、最初に総括的な質問を副委員長からさせていただきます。

宮本政志副委員長 おはようございます。個別の質疑に関しては、この後に入っていくと思いますけど、まずは、中村さんが教育委員にいつなられて、何年ぐらいかということをお聞きしたいと思います。

中村眞也参考人 私が教育委員になったのは、平成29年5月31日です。

宮本政志副委員長 続きまして、ふるさとづくり協議会の会長をされておられたと思うんですけど、いつぐらいからかというのを教えていただいていますか。

中村眞也参考人 日付はちょっと覚えてないんですけど、たしか平成30年5月だったと思います。

宮本政志副委員長 今教育委員でいらっしゃるわけですが、この教育委員の職務あるいは役割をどのようにお考えになられているか、お聞きいたします。

中村眞也参考人 山陽小野田市の学校教育、社会教育を中心にした最高執行機関としての合議制の一員として私は仕事をしています。

宮本政志副委員長 教育委員の職務とか役割についてお聞きしたんですけども、例えば、もう少し具体的に教育委員として、こういった役割があるんじゃないかなというお考えあれば、お聞きしたいと思います。

中村眞也参考人 私が平成29年に教育委員になったときに、平成20年ぐらいから力を入れていたのが、地域と学校の連携協働活動に一番力を入れていました。そして、多様性のある教育委員の皆様方の中で、私は任されたというか、主たる仕事は、地域と学校の連携協働、地域とともにある学校、学校とともにある地域を作っていく、それが一番の私の主要課題といたしますか、山陽小野田市全体ですね、そういう思いで着任しました。

長谷川知司委員長 今総括的な質問は終わりましたので、今後個別な質問に入っていきますが、事前に私が質問を委員の皆様から聞いたのがございますので、それについて質問を申しますので、答えていただければと思います。一つ目、地域性に根づいたふるさとづくり協議会の活動を辞退された理由というのを教えてください。

中村眞也参考人 この度の署名運動において、私の名前が発起人として、ふるさとづくり協議会会長名であれ、中村眞也の名前が出た。この署名活動は、一般的には政治的な要望といたしますか、それを市役所、市長宛てに提出する活動だったと思いますが、そういう活動にふるさとづくり協議会会長名であれ、私が教育委員でもあるということで、名を連ねたことは、教育委員の政治的中立性に反するのではないかという思いで、今後もうこういう署名以外にも表に会長として出ることは、市民の皆様にご心配を抱く行動が今後あり得るのではないかという思いで、2月21日付けで会長職を辞職しました。私が5年弱だったと思うんですけど、埴生のふるさとづくり協議会をやってきて、はっきり言って私が会長でないと運営できないというような組織ではなくて、ほかに有能な人材がいますので、私が突然辞職したとしても、埴生ふるさとづくり協議会の運営に

支障がないという思いで辞職いたしました。

長谷川知司委員長 ただいま一つ目の質問を終わりました。次に行きます。二つ目、地域性に根づいたふるさとづくり協議会の活動は、中立性の確保に無理がありましたか。1と関連すると思います。

中村眞也参考人 私が着任した当初は、教育委員の仕事とふるさとづくり協議会会長の仕事を両立してやっていけるのではないかという思いでした。ときどき私の活動は、教育委員としてはどうなんですかという市民からの問い掛けが、私が会長になった以後にありました。この度の署名活動の指摘を受けて、やはり教育委員の政治的中立性に背くという思いがしました。そして教育委員からの意見も両立は難しい、一生懸命やればやるほど、そういう場面が出てくるのではないかという意見を頂きました。そういう思いを現在持っています。

長谷川知司委員長 では3番目、これまで政治的中立に関し、正しく理解されていたと思われませんか。

中村眞也参考人 教育委員会の政治的中立性と私個人、教育委員個人の政治的中立性に関しては、二つあると思うんです。まず、教育委員の政治的中立性は、地方行政組織法にあると思うんですが、政治団体の役員になってはいけない。それから積極的な政治活動をしてはいけない。これが教育委員の政治的中立性に関する法律に基づいて、その趣旨を本人がしんしゃくして行動しなくてはならない。それともう一つ、教育委員会の政治的中立性ですが、これは教育行政において、特に小中学生を対象とした教育において、1党派あるいは特別な思想を持って教育をしてはいけない。1党派、例えば、山陽小野田市に教育委員が今5人いますが、3人以上同じ政党员であってはならないという規定がありまして、3人目は、罷免に相当するということです。教育行政にもう一つ、教育委員会の市長からの独立性。市長が替わっても、継続的で中立な教育行政をし

ていかなくはないという役割があると思うんです。教育委員会は、委員の合議制で意思決定をいたします。多様な委員の中から、多数決で委員会の決定事項を議決します。そういう意味で、教育委員会にも政治的中立を確保するという制度を設けているのではないかと考えています。

長谷川知司委員長 重複するかもしれませんが、これまで政治的中立に関し認識不足であったと思われませんか。

中村眞也参考人 この度の指摘を受けて、どういう事情があれ、私が埴生の署名活動に名前を連ねたということは、私の政治的中立性に関する認識の甘さは確かにあったんだろうと思います。というのは、署名活動で一政策に発起人として賛同を求めるということは、政治的な活動であり、署名の趣意書に基づいて、賛同を得るということは、政治的な活動に相当し、私の肩書に教育委員という名前があるということは、発起人の名前がふるさとづくり協議会会長ということであれ、私のもう一つの職である教育委員という立場から見て、政治的中立性にそぐわないという思いをいたしています。

長谷川知司委員長 最後ですが、今後、教育委員として、どのように取り組んで行かれますか。

中村眞也参考人 実はこの問題提起を受けたときに、私自身の思いとしては、教育委員を辞めるべきか、ふるさとづくり協議会会長を辞めるべきか、迷いました。当初は、教育委員を辞めようということを教育長と話したときに、当初、私はボランティア活動を主に一生懸命やりたいという思いが20年来あるから、そっちのほうに力を今後入れたいという思いでした。これが1月の段階です。ところがよく考えて、ふるさとづくり協議会会長を辞めることを2月下旬に決めたんですが、なぜ、ふるさとづくり協議会を辞めて、教育委員を続けようと思ったかと言いますと、教育委員の多様性、5人の教育委員がおられて、私の役割とは何だろうか。

市民の皆さんから、あるいは市民を代表する議員の皆さんから——こういう発言する場を設けていただき、それと同時に迷惑をお掛けしているんですが——私の任務は、学校と地域が連携、協働して、地域とともにある学校という思いで、子供たち、あるいは学校も地域とともにあるという状況を、この5年間力を入れてきたつもりなんですが、更にそういう思いを、私の役割としてあるのではないかと。学校と地域が連携活動する中で、子供たちの成長と地域を元気にしていく役割を私に負託されているという思いがありまして、これは山陽小野田市全体の学校、地域をお互いに元気にしていくという私の役割を今後続けていこうという思いを新たにして、教育委員の仕事続ける思いになり、ふるさとづくり協議会会長を辞することにしました。

長谷川知司委員長 一応今まで頂いた質問を参考人に投げ掛けました。これについて皆様方から何か追加質問があればいいですし、その他の質問でもいいですので、皆様方からの質問を受け付けます。

古豊和恵委員 地域に根づいたふるさとづくり協議会の会長を辞任されました。その前に署名運動をされていましてよね。そのときに連名とされていましたがけれども、連名された経緯というか、その理由を教えてくださいたいのと、連名としたときに、多分内容に賛同されたんだろうなと思うんですけども、どういうところに賛同されたのかとか、そういうところもちよっとお尋ねできたらと思うんですが、よろしいでしょうか。

長谷川知司委員長 中村参考人に回答をお願いしますが、質問もできれば一つずつで今後お願いします。

中村眞也参考人 事実関係、経緯を申しますと、12月の日付は覚えていませんが、中旬から下旬に埴生の自治会協議会が主導といいますか、主に自治会長たちを対象に署名活動をするということを知り、埴生の自治会協議会会長から、ふるさとづくり協議会会長の中村さんの名前も載せてい

いかということで、私は軽く了承しました。というのは、埴生の青年の家のゾーンは、昭和40年に山陽オートレース場が開設されたときに緩衝施設、オートレース場は建てるけども、住民の公園とか施設とかを建てたという経緯があると思うんです。その緩衝施設が、この最近、10年来荒れ放題になっているという状況があって、前の白井市長からも、ここをどういうふうにしたらいいのだろうかという住民に対する問い掛けがありました。住民の方々は、何とかしてほしいという思いは一致しているんですが、内容について、どういうふうにするかということについては、皆さん、いろいろな思いがあって、今日まで来ている。そういう経緯で、私は名前を連ねたんですが、そのぐらいでいいですか。

宮本政志副委員長 質問で、ほかにありませんかというのは、委員長申し訳ないですが、主な質問として五つの質問に対する答弁があって、古豊委員は主な質問の一つ目に付随した質問をされた。この一つ目の古豊委員の質問に付随するような質問、若しくは主な質問として五つに関して関連する質問、若しくはそれ以外というふうな質問等いろいろあるんで、ほかにありませんかという質問というのが、どの部分に対する質問かがないと、恐らくぐちゃぐちゃで収拾つかなくなると思うんですけど。

長谷川知司委員長 分かりました。最初質問したほうから一つずつ行きましょか。地域に根づいたふるさとづくり協議会の活動を辞退された理由ということをおっしゃいましたが、それについて質問があれば。2番目の地域性に根づいたふるさとづくり協議会の活動は、中立性の確保に無理がありましたかということと関連するかもしれませんが、その一つ目と二つ目に対して、皆様方から付随する質問があれば、ここでお願いします。

伊場勇委員 全部付随するような感じになるかと思うんですけども、最後のほうにふるさとづくり協議会のほうなのか、教育委員会のほうか、どちらかを辞めるというときに、ボランティア活動のほうに力を入れたいと1月のときには思っていたというふうにおっしゃいましたけども、その後、

教育委員の職務に対して自分の使命がまだあると、もっと推進していくところを自分が進めるべきだというお考えで、ふるさとづくりのほうを辞任されたということなんですけれども、1月から2月に至って、誰かに相談したとか、教育長とお話されたと、その辺はどうだったのかなと思って。

中村眞也参考人 1月13日に初めて教育長と個人的に一对一で、この件について、署名活動について、話をしました。その時点で、先ほど言いましたように、私はボランティア活動のほうに力を入れたいから、どちらかを取れと言われれば、教育委員のほうを辞したいと。2月の段階になって、私のボランティア活動というのは、当初、平成13年に埴生小学校のPTAの役員として、さらに埴生中学校のPTA役員として、PTAの役員が終わった後、埴生中学校支援地域コーディネーターとして、ずっと活動してきた。この4月になって、学校地域協働活動推進員として、私は辞令を受けていますし、こういうボランティア活動も同時にできるなど、教育委員を続けながら、こういう活動は、政治的な中立性に反しない範囲だろうと思うし、できるなと思いました。

長谷川知司委員長 今言われたのは、ふるさとづくり推進協議会ではなくて、学校地域連携協議会ですか。それは可能だという答弁ですか。

中村眞也参考人 付け加えます。埴生のふるさとづくり協議会、私の出身母体は、出身機関は、埴生中学校支援地域コーディネーターとして、埴生ふるさとづくり協議会に加わっています。この地域は、私が会長職を辞したとしても存続します。埴生ふるさとづくり協議会全体がボランティア活動なんですけど、ふるさとづくりの一員としての活動もできると私は思っていますし、していかななくてはいけないと思っています。

長谷川知司委員長 ちょっと確認ですけど、地域支援コーディネーターというのは、ふるさとづくり協議会の中にあるんだという理解でいいんですか。

それとは違うんですか。

中村眞也参考人 これは文部科学省が、たしか平成17年か18年のどちらかだと思っんですが、各地域に学校支援地域本部を作ってくださいということで、平成18年に山陽小野田市が全学校に学校支援地域コーディネーターを配置して、文科省の事業として予算も降り、3年間文部科学省の事業としてやってきました。その後も県、山陽小野田市が財政的には少なくなるんですが、活動を各学校で地域のコーディネーターを任命してやってきました。ふるさとづくり協議会に加わる私の出身母体といいますか、そういうボランティア活動の地域コーディネーターとして、埴生のふるさとづくり協議会に入っているわけです。

長谷川知司委員長 私も学校のコミュニティ・スクールに関係しているんですけど、ふるさとづくり協議会だから出るというんじゃなくて、個人的に地域支援コーディネーターをされているということで、結果として、ふるさとづくり協議会のほうも役員はされているけどという理由でいいんですか。

中村眞也参考人 埴生のふるさとづくり協議会の構成団体は、埴生のあらゆるボランティア団体の方々が集まり、さらに有識者なり、私のように個人的に学校支援地域コーディネーターをされている方が加わって、埴生の地域を元気にしようという組織なんです。

伊場勇委員 話を戻しますけど、1月13日に教育長と話をされたときに、自分の御意向を伝えたんですが、教育長のほうから、教育委員を辞めないでくれとかがあったのか、その辺をもう少し詳しく聞きたいんですけど。

中村眞也参考人 1月の段階で、教育長から私に進退について、こうしてほしいとかいう言葉はなかったと思います。

伊場勇委員 教育長と話して、その後、自分で考えられて、教育委員でまだやらなければいけないことがあるという使命感を持たれて、ふるさとづくり協議会のほうを辞任されたということですね。初めの署名活動に連名した経緯のときに、軽く了承したというふうに言われました。軽く了承したというところに問題があったのかなというふうに思っているんですけども、軽く了承した理由があれば、教えてください。

中村眞也参考人 先ほど申したかと思うんですが、埴生のふるさとづくり協議会をはじめ、埴生の住民の方々が青年の家のゾーンを何とかしなくてはならない、あそこを今の状態のままでほっとくわけにいかないという思いは、埴生の住民の皆さんにあるのではないかと思います。その時点で、実を申しますと、軽率ですけど、私は趣意書を読んでいない。埴生の住民の皆さんが、あそこを何とかしてくれという思いは、もう10年来、個人的に感じていました。あそこの青年の家のゾーンを何とかしてくれという思いは、ふるさとづくり協議会も埴生の住民の方々も賛同してくれるものという思いで軽く受けた経緯があります。

伊場勇委員 内容をちゃんと見ていなかったというところなんですけども、了承するときに、中立性とかを考える立場にいらっしゃるところは考えなかったんですか。

中村眞也参考人 正直言って考えなかったです。後から指摘されて、こういう署名活動というのは、一般的に政治的な活動になるんだなということを再認識というか、私は政治的な思いはなかったと思うんですが、山陽小野田市民にとっては、特別の政策というか、あそこを何とかしてくれという、再整備してくれという思いというのは、政治的な動きだなと後から認識しました。

古豊和恵委員 先ほどから言われていますけれども、教育委員としても、ボランティア活動をたくさんされていらっしゃいます。自分の今までの活動

を通して、署名運動をするに当たって、関係性というか、自分が関わることによって、署名活動がどうなるかということは、どういうふうに考えられましたか。

中村眞也参考人 ふるさとづくり協議会を私はそのときに考えていて、埴生のふるさとづくり協議会は、保育園からは年齢的に上は老人クラブまで、あらゆる団体の皆さんが参加、加入されていて、ふるさとづくり協議会のことというか、皆さんのことを思いながら、発起人に名前を連ねることを了承したというか、そういう思いが一番でした。

宮本政志副委員長 そうすると、今の古豊委員の質疑に少し関連するんですけど、先ほど二つ目の地域性に根づいたふるさと協議会の活動は、中立性の確保に無理がありましたかという質問に対する御答弁の中で、教育委員でもあり、ふるさとづくり協議会の会長として、どうなんだという意見が地域の方からもあったんですよとおっしゃったんですけど、それは、今回の署名活動の書類にお名前を出す前から、地域の方々から御意見があったんですか。

中村眞也参考人 具体的には覚えていないんですが、そういう声は聞きました。私がボランティア活動する中で、教育委員としての立場でもいいのかという質問を受けたような覚えがあります。

宮本政志副委員長 そういった質問を地域住民、市民の方から受けて、教育委員がふるさとづくり協議会のほうで、そういうボランティア活動をしていいのかという御意見を聞いたときに、中村さんはどのように感じられた、若しくは何か返答されたのであれば、その辺りをお聞きしていいですか。

中村眞也参考人 ボランティア活動するときに、前ばかり見て、横やら後ろを振り返らないという性格かも分からないけども、これはやらなくてはいい

けない、ボランティア活動としてやらなくてはいけないと思ったら、先に行動に走ってしまうんです。そういう性格というか、自ら汗を流す性格なんです。そして進んでいくときに、それを見て、中村さんは教育委員でもありますね、そこまでやっていいんですかという疑問を提示されたことがあったと思います。そのときに私は、これは学校と子供たちのためになるんだから、教育委員としても、そういう面で私が先頭に立ってやってもいいんじゃないという返答とか、ちょっとこれは行き過ぎかな、教育委員である者が先頭に立ってボランティア活動をするのは、行き過ぎかなと思ったことがあります。具体的にどういう場面だったか思い出せないんですけど。

宮本政志副委員長 地域の方から、教育委員として、ふるさとづくり協議会でボランティア活動ということの疑問を受けて、少し教育委員としてはよくないのかなというふうに感じたこともあるというふうにおっしゃったんで、そうすると、そのときに署名活動の書類にふるさとづくり協議会の会長としてのお名前が出るに当たって、しかし、教育委員という立場であるということも当然あって、その前から地域の方々からいいのかということで、いいとは思っていなかったという答えがあったのであれば、なぜ署名活動の書類にふるさとづくり協議会の会長としての名前をちゅうちょなく簡単に出せるのかなと思います。少しそこに矛盾を感じたなと思ったので、その辺りをお聞きしたいんです。

中村眞也参考人 宮本副委員長の言葉で思い出したんですが、何かの協賛金を集めるときに、私が先頭に立って、個人の協賛金を私の名前で集めたんです。それに対して、教育委員が、そういうことをしていいんですかと言われました。具体的には、国道筋の壁を子供たちと一緒に書くときに、どうしても経費が要る。どこからもお金は出ないというときに、私が代表名で協賛金を募ったということでした。今思い出しました。次の質問ですが、この度の青年の家ゾーンの署名活動については、長年地域のためにオートレース事業がいまだに続いて、ナイターもやり、ミッドナ

イトもやり、そういう状況で、あそこの緩衝施設をそのままほっといていいのだろうかという思いは、もう10年来私の中では募っていた。そういう意味で、軽率でしたけど、署名簿に名前を連ねていいかと言われて、軽く返事をしたということです。

宮本政志副委員長 時系列は分かりました。今回の署名活動の書類にふるさとづくり協議会の会長としてお名前が出る前に、先ほどのお金というか、そういったものを集めるときに、教育委員として、こういう活動していいのかということで受けた。今回、そういったことがあったけども、青年の家に対する思いが強くて、あまり深く考えずに署名活動の書類に名前が出てしまったという時系列はこれで分かるんです。そうすると今度は、例えば教育委員としたら、青年の家というのは全てじゃないですが、教育委員会が所管することもあるんです。そうすると教育委員会として、我々議会のほうにも議案が出てくるもんなんですよ。そうすると、教育委員の立場としたら、教育委員会内の情報というのは分かるわけですよ。その立場と、今度は、長年青年の家に関して10年以上地域の方々からいろんな思いを聞いているからというのは、線引きとか、あるいはその辺りの立場はどのように考えていましたか。

中村眞也参考人 青年の家の研修棟と天文館を解体するというのは、情報として、議会で解体のもう決議があったと、平成29年でしたかね、それは知っていました。その後、あそこのゾーンをどういうふうにしていくのかということに関しては、私の認識では、市役所も教育委員会も埴生の住民の人たちも、この案でというのはなかった状態だと私は認識していました。

宮本政志副委員長 教育委員の立場として知り得た情報を、別の活動で漏らしたりどうだということはないということ、立場をきちっと確認しておいたということ、もう一度確認したいんですが、それでよろしいですか。

中村眞也参考人 はい、結構です。そのとおりです。

宮本政志副委員長 先ほど地域コーディネーターの件とか、いろいろお話が出ていましたけども、中村さんは、ふるさとの会長は辞職されましたが、今後も埴生地区ふるさと協議会の活動には当然参加されるんですか。それとも、そういったことはもう一切参加されないんですか。

中村眞也参考人 学校地域協働活動推進員という立場で、埴生ふるさとづくり協議会の構成員になると思います。4月から名前が変わりましたが、地域コーディネーターとしての地位と協働活動推進員としての地位は一緒ですので、ふるさとづくり協議会の平構成員として活動はしたいと思っています。

宮本政志副委員長 教育委員とふるさとの会長は、両立が難しいからという理由なんですけど、会長職じゃなければ両立は可能なんですか。

中村眞也参考人 可能と思っています。先ほど両立が難しいと言ったのは、ふるさとづくり協議会会長の名前で、私の名前が出るわけですね。会長職にいる以上、名前が出るのが、今後何らかの要望とか、署名活動はせずとも、何らかの要望とか、何らかのふるさとづくり協議会会長名で文書を出すということになります。会長職であれば、私の名前が出てくると思うんですが、平会員である私が、そういう文章に名前を出すということは、今まであり得ないので、ボランティアとして、ふるさとづくり協議会の1構成員として、活動を続けて行きたいと思っています。

宮本政志副委員長 今回のこれというのは、教育委員としての中立性の確保というのが問われているわけです。今の中村さんの御答弁では、会長として名前を出さなければ、別に問題もないし、どんどん活動していきますということをおっしゃっているということは、中立性の確保に関してと

というのは、会長として名前が出なければ、中立性の確保ができるというふうにお考えなのかなと感じ取れるんですけど、その辺りというのは、中立性の確保の部分からお聞きしていいですか。

中村眞也参考人 先ほどちょっと言ったんですが、今後、ふるさとの役職以外でもそういう場面が——言ったんですが、協賛金を集めて、私が先頭になって、あれはふるさとの会長で集めたわけじゃないんです。ボランティア団体といいますか、私が学校支援のボランティアの方々の埴生中学校の代表なんです。私はコーディネーターと同時にボランティアの一員でもあるんです。そういう立場で募金、協賛金、支援金、具体的には支援金と当初言ったんですが、集めたんです。そういうことが教育委員の政治的中立性に反するかどうかは、私が個人的にその都度判断しなくてはいけないと思っています。

宮本政志副委員長 今の御答弁から、ふるさとづくり協議会とか、そういったところの会長でなければ、ある程度そういったボランティア活動とか、そういった地域の活動をして、教育委員としての政治的中立性は確保をされているんだろう、されないかどうかは、その都度考えていくということが確認されました。

長谷川知司委員長 ここで10分間ほど休憩したいと思います。11時から再開いたしますので、ここで一時休憩いたします。

---

午前10時50分 休憩

---

---

午前11時 再開

---

長谷川知司委員長 では休憩を解きまして、委員会を再開いたします。

古豊和恵委員 12月に署名の発起人を受けられたと先ほどお話があったと思

うんですけれど、1月13日に教育長と進退についてお話をされたらと。  
そうすると、大体何月何日頃に御自身で問題を認識されたのか。

中村眞也参考人 これは1月13日に、私に出頭というか、来てくださいという  
ことで、教育長室で話を聞いた中で、こういう問題があるのかという  
認識をしました。

古豊和恵委員 すると教育長から進退について話があるまでは、自分の中では  
問題であるという認識はなかったということによろしいんですか。

中村眞也参考人 はい、ありませんでした。

古豊和恵委員 そうするとそのときに教育長から進退について、いろいろお話  
があったときに、教育長に対してどのような対応をされたのか、もう少し  
詳しくお尋ねできたらと思います。

中村眞也参考人 教育長が私の進退に触れたわけではないんです。こういう署  
名活動があるけど、これはどうなんだろうという私に対する問いか  
けが主でした。

古豊和恵委員 では、その問いに対して、自分自身でどういうふうに、何を考  
えられましたか、そのときに。

中村眞也参考人 先ほども言いましたように、この署名活動は、埴生の長年の  
懸案事項であると、そのときはそういう思いでした。その後、教育委員  
会に伊藤實さんから要請文が出されて、日付は2月10日付けだったと  
思うんですが、その前に2月8日時点で要請文が私以外の4名の教育委  
員宛てだったので、教育委員の意見を述べてもらうという場で進展があ  
ったということです。その前に署名簿の私の名前を除くことができない  
だろうかということで、地元の方々と話をしました。その話をしたのが

教育長の話を受けた後ですから、もう署名簿が各地区で自治会ごとに回っていると、もう署名した人もいます。だから、署名簿の私の名前を除くことは無理だという地元の判断がありました。

宮本政志副委員長 関連します。今の古豊委員の質疑ですね。そうすると先ほど主な質問の3番目で、これまで政治的中立に関し、正しく理解されていたと思われませんか。答弁の中で、積極的な政治活動は駄目だというふうになっているが、積極的でなかったから良かったのかなという雰囲気を受けたんです。まず、教育委員に対して、どのような決まり事で、その積極的な政治活動をしてはいけないということがうたわれてあるんですか。あるいは文書ではなくて、何かほかの職に就くときに、そういったことを口頭で伝えられるのか、その辺り積極的な政治活動は駄目だということに関して、ちょっと詳しくお聞きしたいんですけど。

中村眞也参考人 地域行政組織法の中の条文で、教育委員は積極的な政治活動をしてはならないとあることは、教育委員になったときから私は認識していました。ただ、積極的な政治活動というのはどういうことだろうかという判断が付きかねるところはあるなという思いはありました。

笹木慶之委員 今お話しされましたが、積極的な政治活動ということですよ。これ非常に曖昧な表現だと私も思います。今、中村委員は曖昧なままに今日に至っているということなんですか、どうでしょうか。

中村眞也参考人 積極的な政治活動というのはどういう場合だろうかという曖昧な点は正直言ってあります。

笹木慶之委員 それに対して、やはり、それなりの答えを出していかないと、今後問題が起こる可能性を秘めているということですよ。あるなしということじゃなしに、状況的に秘めているということになるじゃないですか。やはりその辺は整理しておかないと、どの辺までがいいのか、ど

れから先はいけないのかというところについてはね。それはどうされようとしていますか。

中村眞也参考人 今後、教育長、それから教育委員会事務局と、曖昧なところは相談して、これはしていいんだろうか、どうだろうかということをする前に判断を仰いでいきたいと思っています。

笹木慶之委員 関連してお尋ねしますが、もちろん教育委員として自立性を持って事を運ぶということは大事なことであって、それはそうだと思うんですけど、先ほどから言っておられる学校運営と地域を一体化させる、やはり学校は地域を創る、地域は学校を創るという、この思いは私も全く一緒です。私もそういう立場で活動しておりますから一緒なんですけど、ただし、そこには第一線があるんですよね。そこについてお尋ねしますが、両方立てて行くことは、何ら支障が起こらないと思っておられますか。

中村眞也参考人 今聞き取れなかったんですけど。

笹木慶之委員 もう一回言いましょう。学校運営のほうは問題ないと思うんですが、地域については地域的な問題で、やはりそこにはそれなりのものが働く可能性を持っているんですよね。そのときに相反する問題が起こるかもしれない、そういうときにはどうされようとしておられますか。

中村眞也参考人 これも教育委員会事務局を通じて、文部科学省のある程度の事例があると思うんですよ。そういうものを頂いて行動していきたいと考えています。

笹木慶之委員 先ほど来から、コミスクの話がでておりますが、コミスク自体はソフト面のことなんですよね。ハード面のことじゃないんですよね。とは言いながら、今言いますように、やはり地域は地域の思いがあって、

学校は学校の思いがあってといういろんな面で、あってはならないことですが、あるやもしれない。だから、それはやっぱりそういったことは、一つの指針として持ってやるということが、私は大事だと思うんですが、あと言われたように一つの方向性を決めるときには、一定の尺度を持ってやるということですからいいんですが、その辺りですね。それともう1点、これは教育長からお尋ねしたことなんですけど、教育長のほうから言われましたが、今日、参考人として来ていただいた理由の一つとしては、やはり中村さん御自身がこの度のことについて、どう思っておられるかということですよ。教育委員に対してはどのようにされましたか。

中村眞也参考人 冒頭に言いましたように、署名活動に名を連ねて一定の主張の賛同を集めることは、政治活動に相当するという判断で、なおかつ教育委員に課せられている政治的中立性に反するという、私自身の結論を持ってしまして、この件については、山陽小野田市に、それと市民を代表する議員の皆様に迷惑をお掛けしたことに對して、誠に遺憾、謝罪を申し上げたいと思っています。

宮本政志副委員長 一つ前に戻りますけどね、重要なことなんですけど、先ほどその積極的な政治活動とかということに関して、中村さんは確認しておけばよかったが、その都度確認をしてなかった、今後は確認していこうと思っていますとおっしゃいましたよね。そうすると、本市の教育委員会そのものの在り方と言いますか、組織の。他の教育委員さんも含めて、何かあったらこれはどうなんだ、ここはどういうふうに解釈すればいいんだということは、教育委員会のほうに相談というのは常日頃ないんでしょうね。そのことは御存じですか。ほかの委員の方も、教育委員会には相談せずという、今そういう組織なんじゃないかな。

中村眞也参考人 私に意見を頂いたときに、委員の1人は、「私はそういう疑義が生じるときは、教育長に確認してから行動しています」と。私に関

しては、個人で教育長あるいは事務局に言うことがあった記憶がありません。例えば、私が埴生ふるさとづくり協議会会長になることは、会長職に就くこと自体が教育委員の仕事にそぐわない、教育委員の仕事と、何て言いますか、仕事柄まずいというか、俗に言うまずいことがありますかって、当時の部長に会長職に就くときに聞きました。そうしたら、ふるさとづくり協議会会長職に就くことはいいけど、今度は教育委員会の政策に対して、ふるさとづくり協議会が要望を出すということは、自分から自分に要望を出すことになりますよと、そこは気を付けてもらわないといけませんよという注意は受けました。

宮本政志副委員長　そうしますと、やはり教育委員会の組織として、こういった確認事項というのは、教育委員会にも後日言っていきますけども、先ほど中村さん謝罪されましたよね。その謝罪の中で、安易な行動を取ったということがやはりあったと、それに関して大変遺憾でありということでおっしゃいましたよね。だから、それは行動を取ったことに関して、今おっしゃったんですけど、どういうお気持ちが今その謝罪の中に含まれているのかというのをお聞きしたいんですよ。やはり教育委員である立場ですから、その辺りをもう少し詳しくお聞きしていいですか。

中村眞也参考人　先ほど来、私の政治的中立性に関する認識の甘さ、それに基づく、この度の署名活動に名を連ねたことに対して、今後、二度とこういうことがあってはいけないという思いです。教育委員としての活動と、ボランティア団体の活動が、先ほど来から出ているように、教育委員としてそぐわないのではないかという指摘も、教育委員からも、両方を一生懸命やると、どうしてもそういう政治的な絡みが出てくるから、どちらかを辞退されたほうがいいというアドバイス、意見を受けて、私もそれに同意して、この度、会長職を辞退したんですが、それと同時に、私は埴生の住民以外に謝るというか、遺憾であるということを表示する場として、今日があるんだと思っています。この場を借りて、先ほどですね、市民あるいは市民を代表する議員の方に謝罪を申し入れたと。これ

はもう間違いない私の気持ちです。

伊場勇委員 この度、お呼びしたのは、先日、教育長にも来ていただいて、この件についてはいろいろやり取りしたところ、3月17日の教育委員会定例会の議事録を頂いて、そのことについてお話ししたんですけども、教育長から、その前に教育長と教育委員のほうでもお話があったということで、先ほどおっしゃった、そのときにどちらを辞したらいいのかという話があったと思います。このことについて、他の委員からどういった御意見を頂いたのか教えてもらえますか。

中村眞也参考人 ある委員からは、教育委員である以上、私はそういう団体の役を引き受けることをずっと断ってきましたと。それから、もう1人の委員は、そういうボランティア団体といえど、教育委員の仕事とボランティアの仕事を一生懸命やると、どうしてもそういう中立性を疑われる場面が出てくると、これは難しいんじゃないですかという意見を受けました。もう1人の委員からは、よく分からないけど、そういう場面に遭遇したときは、教育長なり、事務局に相談して行動すべきじゃないですかという意見を受けました。その教育委員、教育長も含めて4人に、私個人のために定例会前に集まっていたいたんです。そのときに私は、委員に対して、申し訳ないと謝ったんです。私のために時間を取られ、そういう思いをさせて申し訳ないと。定例会のときに、教育長が報告事項で報告するというので、ほぼ、その内容を全部報告していただいたんです。私の発言もあったんですが、そのときに後から考えてみると、謝罪という言葉が何かなかったような気が、あれはちょっと足らなかったな、言葉足らずだなという思いでした。これも後から気が付いたので。報告事項というのは、私は報告すればいいのかなという感覚で行ったら、謝罪の場、私の感覚で謝罪の場なのかどうなのかという、そのままで過ごしてしまったという経緯があります。

伊場勇委員 はい、分かりました。他の教育委員の方からいろいろお言葉を頂

いたと。そのときは謝罪をさせていただいたということで、そのとき教育長は、中村さんに対してこの事案についてはもうふさわしくなかったですよとか、そういったお言葉があったんですか。その教育長からの指導というか。

中村眞也参考人 はい、ありました。1教育委員がこういう署名活動に関わるということは、市民の間でいろいろ問題ではないかという意見が出てくると。こういうことは慎まないといけないのではないかという発言がありました。

伊場勇委員 先ほどおっしゃったその定例会の中で、御報告だけに終わっていて、謝罪がなかったというのは、別に指示されたわけではなくて、中村さん本人が報告だから報告だけでよかったですらうと、後々考えてみたら、あの場で謝罪するべきだったんじゃないかというふうに思われているということで、間違いはないですか。

中村眞也参考人 はい、間違いありません。

長谷川知司委員長 では、主な質問を最初にしたんですが、その3番目についてお聞きします。これ4番目とも関連しますので、3、4一緒にするかもしれません。これまで政治的中立に関し、正しく理解されていたと思われませんかということは、先ほど答弁されました。また、これまで政治的中立に関し、認識不足であったと思われませんかということについても、回答はされました。その回答について、皆様方から質問があればお聞きします。いいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）では最後、今後、教育委員としてどのように取り組んでいかれますかということで、先ほど参考人さんからは回答がありました。これについて皆様方から質疑があれば、お受けします。

古豊和恵委員 ちょっとニュアンスが違うかも分かりませんが、この度、

陳情書というのが出ました。その陳情書について何か思いがあれば何か一言いただければ。

中村眞也参考人 先ほどから言っていますが、教育委員の政治的な中立性に関する認識の甘さがあり、こういう指摘を受けて、なるほどなという。これは先ほど言いました、政治的な主張に対して賛同を求める行動は、教育委員という職を受けている以上よろしくない。そこで気が付かされた面もある。今までの認識の甘さがあつてですね。ただ、私は今後、山陽小野田市の教育行政に対して、そういうことを踏まえながら、気を付けながら活動していくことは、先ほど来言っていますように、多様性を持った教育委員の集まりである教育委員会の合議機関の一員として、今後、私の持っている力を山陽小野田市民のために、子供たちのために、社会教育も含めて、私に負託された仕事を一生懸命やっていくつもりです。

長谷川知司委員長 一応主な質問についての関連質疑は終わりました、皆様方からそれ以外で質疑があれば、遠慮なく言ってください。

前田浩司委員 五つの質問に対して答えていただきまして、最終的に中村委員から、やはり、山陽小野田市全体の教育委員という立場で、これから頑張っていきたいという思いは、この場でしっかり理解をさせていただきました。それで、先ほどから子供たちの成長に合わせて、社会教育の推進に向けて、子供たちの学びの場である教育行政に対して、今現在、この辺を今後に向けて取り組んでいきたいという何か課題がありましたら、具体的にお答えいただければということでもよろしく願いいたします。

中村眞也参考人 私が今一番力を入れているのは、学校地域連携カリキュラム、これは埴生中学校区だけにしかできてない、他の中学校区ではまだ作成実行されてないんですが、埴生中学校区ではこの2年、そのカリキュラムを、今年は3年目になりますけど、実施している状況なんです。なぜ

よその地区で、こういう学校地域連携カリキュラムができないんだろうかと私なりに考えているところはあるんですけど、それを山陽小野田市全体でそういう取組がなされることが、子供たちのためにも学校のためにもいいだろうということで、今一番取り組んでいるところです。

前田浩司委員 ちょっと全体を通じて、この会場で今回ボランティアということで、その位置づけの一つとして、今回ふるさとづくり協議会の会長職にあられた中村委員、今後ボランティアに対しての取組について、今現段階、特に気を付けないといけないことというのが何かあれば……

宮本政志副委員長 陳情書に関係あるかいね。陳情書に関係ないこと、これは。

長谷川知司委員長 今後の教育委員としてのやることを確認したいということですか。

前田浩司委員 そういう意味になります。

長谷川知司委員長 それは先ほど参考人も言われましたように、学校教育、社会教育を広く推進したいと言われております。

前田浩司委員 分かりました。

長谷川知司委員長 それでいいですか。

前田浩司委員 はい、結構です。

伊場勇委員 今回のことで、やはり教育行政に与えた影響があると思うんですよ。陳情まで出てきて、議員も市民の人からも幾つか御意見を頂いていると思うんですけども、その影響をどのように思いますか。教育行政に対してですね。

中村眞也参考人 今の教育長が就任して以来、年度初めごとに注意喚起の資料を徹底して配布、徹底して教育委員に研修していただくということが出てきました。さらに事務局も、この件に関しては、日頃から一緒に勉強して、こういう問題が起こらないようにという体制を確認しています。ただ、教育委員会議というのは、議会でもそうでしょうけど、5人の合議で多数決で決するんですよね。だから、最初から、教育行政の中立、これはちょっと言葉に語弊があるんですけど、そういうことを目指してというよりも、活発に市民の子供たちの思いを教育行政の中に、我々は意見を活発に議論する場でもあろうと思うんです。教育委員会の中で、例えば1人の委員が極端な意見を言っても多数でそれは制止される。だけど、その議論する中で良くなることというのが、あるんだろうと私は思うんです。教育事務局が考えていること、局長が考えていること、教育委員が考えることが委員会の中で出されて、山陽小野田市の教育にとって一番いいものは何だろうかということは、きっかけになるような委員会になってほしいなという思いがあります。この度、私はこういう一連の署名活動の中で、教育委員会に対して多大な迷惑と労力をかけているのは事実であって、私は今後こういう政治的な中立性に関する事態が、私から起こらないように、皆さんに今までのことを陳謝し、今後こういうことがないようにするということを、改めてこの場を借りて、教育委員会の委員たちに、あるいは事務局に申し上げておきたいと思います。

伊場勇委員 教育委員会と教育委員については、そういう思いでいらっしゃると。教育行政に対してはどうですか。

中村眞也参考人 教育行政について、なかなか我々教育委員が、1委員がなかなか今まで言いづらいところが、私の率直な感想としてですね。

長谷川知司委員長 ちょっともう一回質問の趣旨を言っておきますか。

伊場勇委員 今回の中立性を欠く行動であろうという事案について、教育行政に対して、どのような影響があったかというふうに思われているかということですか。

中村眞也参考人 私の行動によって、教育委員会の政治的中立性、行政の中立性を皆さんと議論したことによってですね、今以上に保たれていくと私は思っています。

伊場勇委員 市民の方がですね、この教育行政に対して、今回の事案に不安を持たれたのではないかというふうに思うんですけども、その点については、どう思われますか。

中村眞也参考人 この点に関してはですね、先ほど来申しましたように、教育長はじめ教育委員会がそういうことが今後ないように研修をしながらやっっていこうということで、事務局も含めて確認していますので、大丈夫だと私は確信しています。

伊場勇委員 今回の事案ですね、この教育行政に対して、市民の方を不安にさせたという御認識はありますか。

中村眞也参考人 先ほど言っていますように、署名活動で、私が教育委員という立場でありながら、それに名を連ねたということで、市民が山陽小野田市の教育行政に関する不安を持たれたということに対して、私がそれを受け止め、市民の皆さん、市民を代表する議員の皆さんに遺憾であると謝ったことによって、これは、私が再度そんなことをするということは私の人格が疑われますのでないだろうと。教育委員の皆さんも、私に助言、忠告をされているんですから、そういう不安はないと確信しています。

宮本政志副委員長 今日、全般的なお話をお聞きしましてね、ものすごく埴生

地域のこと、あるいは何ていうか、地域と学校との連携をやっていきたいんだというのは分かるんですね。そうすると、一つは、教育委員よりもそれこそふるさとの会長とか自治協の会長とか、もっともっと地域と学校を結びつけたり、地域のほうのそういったいろんな活動をするには非常にしやすい、つまり教育委員だからいろいろこう壁が出てくるというか、そういったふうに、今日全般通して感じるんですよ。それについてはどう思われますか。

中村眞也参考人 私は、コミュニティ・スクールの学校運営協議会の委員でもあるんです。そうすると、私が自治会協議会の方々、ふるさとづくり協議会の方々に協力をお願いする立場になるんです。学校運営協議会の方針に基づいてですね。だから、宮本副委員長がおっしゃられることは、私がそういう自治会協議会、ふるさとづくり協議会の地位で活動したほうが、子供たち、あるいは社会教育のためになるのではないかということに、必ずしもそうならないんじゃないかと思うんですが。

宮本政志副委員長 中村参考人さんのその思いを成し遂げるには、私はそうかなと思って、先ほどお聞きしたんですよ。それと今5人の教育委員の中で、中村さんのように、例えば、ふるさとか何かの会長をされていた方というのはいらっしゃったんですか。

中村眞也参考人 ふるさとづくり協議会会長さんが、学校運営委員会とか学校に関わる職ですか。

宮本政志副委員長 すみません、私の質問が悪かったです。教育委員の中に、ふるさとづくり協議会の会長とか自治会協議会の会長とか社会福祉協議会の会長とか、そういった会長をされている方が、中村さん以外にいらっしゃるんですかというのをお聞きしたんです。

中村眞也参考人 はい、分かりました。今の委員の中にはいらっしゃらない。

ただ、委員の中に、PTAの役員をされている方、あるいは民生委員をされている方、それとか家庭教育支援組織のリーダーになっておられる方がいます。

宮本政志副委員長 今日のお話をずっとお聞きして、今それを聞いたのは、例えば、教育委員というのは山陽小野田市の教育行政をつかさどって、いろんな問題や課題あるいは政策提言をしていく立場で、例えば、埴生地区のふるさとづくり協議会の会長、社会福祉協議会の会長、自治会協議会の会長とかをされていたら、本来は市全体のことを考えないといけない教育委員の立場が、地域エゴ、ある意味、埴生地域のことを中心にというふうな活動になっているんじゃないかな、何かそういう思いがお強いなというふうに今日一日感じたんですよ。そういったことは今までなかったんですね。そして、今後とも埴生だけじゃなくて、やはり教育委員として、全体の教育行政を見ていくと、そういうふうなところを確認したいんですけど。

中村眞也参考人 副委員長が申されたとおり、埴生で、私が学校運営協議会の委員であり、今まで学校支援地域コーディネーターであり、埴生のことを中心にやっている、埴生だけじゃないかという思いが感じられるところが多々あったと。だけど、私は山陽小野田市の教育委員として、山陽小野田市全体の子供たち、あるいは社会教育を念頭に活動しなきゃいけないということは、教育委員の仕事を重ねる度に思いは募っています。当初は、私の実際の出身地区である埴生地区を何とかという思いがあったんですが、各学校訪問を毎年する中で、各地域の子供たちのことを念頭に発案していこうという思いを持っています。

宮本政志副委員長 そうすると、この陳情書にやはり一番大事なこの中立性、いろんな意味での中立性、これはもう必ず確保して行って、教育委員としてということによろしいですね。

中村眞也参考人 はい。よろしいと思います。

長谷川知司委員長 ほかに意見はございますか。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、ないようでしたら、ここで5分ほど委員会をちょっと休憩いたします。すみません。ちょっと私忘れておりました。参考人にお礼を申さないといけませんでした。質問がないようですので、以上で質疑を終了いたします。参考人に一言お礼を申し上げます。本日はお忙しい中、本委員会に出席していただき、貴重な御意見を述べていただいたことに対し感謝いたします。頂きました貴重な御意見等は、今後、本委員会での審査に十分生かしてまいりたいと思います。本日は誠にありがとうございました。それでは、総務文教常任委員会を休憩いたします。暫時休憩です。

---

午前11時45分 休憩

---

(参考人退室)

---

午前11時50分 再開

---

長谷川知司委員長 では休憩を解きまして、委員会を再開いたします。先ほど参考人から、様々な質疑についての回答を頂きました。今後のこの陳情書に対する進め方を皆さんと協議したいと思いますが、陳情書についての内容の調査はこれで終了したと理解してよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、今日の内容をもう一回精査いたしまして、陳情者に対する報告書を委員会としてどうするかを作成していきたいと思えます。そのたたき台を、私と副委員長で一緒に作って、皆様に報告して、それをもって議長に返すという方向でよろしいでしょうか。いいですか。

伊場勇委員 今回、中村眞也教育委員に参考人で来ていただいて、事実確認をいろいろしましたし、本人の考え方と経緯についても、そのときの思い

や今の認識についても聞きました。それに当たって陳謝されましたよね。議会の皆様、そして教育委員に対して、そして何よりも市民の方々にこの場を借りてという言葉もありました。それを踏まえて、教育委員会のトップである教育長はどういうお考えなのかというのも、議会としても、委員会としてもきちんと確認しなきゃいけないんじゃないかと思うんですよ。それを受けて、また陳情書の回答にも入れてもいいんじゃないのかなというふうに思うんですけども、いかがでしょうか。

笹木慶之委員 中段まで中村委員は、政治的中立性のいわゆる法的な面とかいうものは理解しておられたけれども、事実関係、客観的にそれをどう捉えるかというところに、曖昧さが残っちゃったんですよね。それではやはり同じことを繰り返すんじゃないかという思いもあったので、確認をして、そのチェック機能を働かせて確実にいくという思いが出ました。それは、教育委員会の判断を仰いでということもありましたので、今伊場委員が言われたように、そういったこともあったのでということをつけ加えて、やはり確認を取って、そして、回答書に書いたほうがいいと思います。もう1点は、教育部長がこちらの委員会で、いろいろお答えいただいた内容と、御本人のお答えした内容にそごはなかったということで確認できたということ、これもやはり書いておくべきだというふうに思います。しかし、それは長々と時間掛かってようやく確認が取れたということは、ちょっともう少し早くスピーディーに対処できなかったかという思いがありますけど、その辺りを踏まえて、もう一度整理しておいたほうがいいと思うんです。

長谷川知司委員長 ほかに意見はございませんか。（「ありません」と呼ぶ者あり）では、皆様方の意見を踏まえて、今度臨時会がございます。その臨時会の中で総務文教委員会も議案がございますので、その議案が終わりましたら、教育委員会から教育長に出席いただきまして、今日のこの中村参考人の質疑、答弁を踏まえて、今後の教育委員会の姿勢を再度確認するというところでよろしいでしょうか。

宮本政志副委員長 事務局にちょっと確認したいんですけど、今委員長がおっしゃった5月臨時会の件だと思います。これが、まだ議会運営委員会が開催されていませんから日程は決定してないし、変更はあるかもしれないけど、大体今の前提でいくと、議案審査をするその日に、教育委員会を呼んで委員会をしますという、委員長の意向でいくと、今の大体の予定で何日か分かりますか。もし分かったら教えてほしいんですけど。

河口議会事務局長 今言われたように、議運が月曜日に開催されますので、案としてでございますが、一応20日の予定をしております。

宮本政志副委員長 そうすると、長谷川委員長がおっしゃった教育委員会との総務文教常任委員会の開催は20日の議案審査全て終わった後という認識でよろしいでしょうか。

長谷川知司委員長 よろしいでしょうか、皆さん。（「はい」と呼ぶ者あり）  
そういうことで進めたいと思います。それを受けて、報告書を作って、皆さんに了解いただいた上で、議長へ返すということで行きたいと思えます。いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、これで陳情書の審査についての本日の審議を終わります。どうもお疲れ様でした。これで閉会いたします。

---

午前11時57分 散会

---

令和4年（2022年）5月12日

総務文教常任委員長 長谷川 知 司